

## 1. はじめに

近年、インターネットの急速な普及にともない教育機関にも様々な影響をおよぼしている。例えば2005年のCampus Computingの調査結果[1]によると、北米の90%以上の高等教育機関がe-ラーニングシステムを導入している。今後e-ラーニングシステムを導入する教育機関は日本でも増えていくものと思われる。本研究では学生の学習進捗に合わせて課題を提供する仕組みをMoodle[2]による授業ポータルサイト上に実装する。

## 2. 進捗に合わせた課題提示

実装する課題提示方法は、課題の評価がある一定以上であれば次の課題が提示されるという単純なものではない。進捗状況に合わせて提示する課題を変えるという、対面指導的な仕組みをもっている。例えば、図1のように前提となる課題の成績が可→良であれば課題A→C→Eと提示することになる。

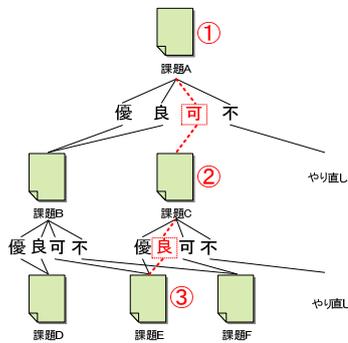


図1. 対面指導的な課題提示の例

## 3. Moodleによる実装

提案する課題提示方法を、Moodleのモジュール“Activity Locking”を用いて実装する。例えば、図2のように課題A, B, Cのいずれかの課題のうち2つを解答できたとき、次の課題が提示されるように設定したいとする。もし前提となる課題がA, Bの場合で、Aの評価とBの評価(AとBは独立に評価を設定できるが、ここではAとBを総合評価している)が、優のときは課題D, 良のときは課題E, 可のときは課題F, 不可のときはやり直しとして提示させるために、課題D, E, Fにそれぞれ提示条件を設定する。課題B, Cの場合、課題A, Cの場合も同様に条件を設定すればよい。図2に対応するMoodleでの課題提示画面を図3に示す。条件完了後に次の課題が表示されているのがわかる。

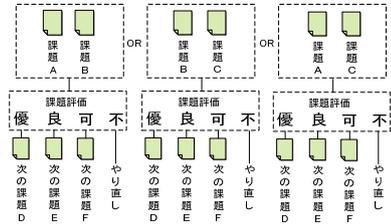


図2. 次の課題を提示する条件の例



図3. Moodleでの課題提示画面

## 4. おわりに

本研究では、学生の学習進捗に合わせて課題を提供するポータルサイトを作成することを目的とし、Moodleによる授業ポータルサイトを作成した。Moodleによる実装では、新たにActivity Lockingモジュールを用い、学生の課題進捗に合わせた課題提示の仕組みを構築した。そこでは、学生の課題進捗に合わせて以下の課題提示が可能であることがわかった。

- 1) 複数の課題をすべて解答できたとき次の課題を提示
- 2) 複数の課題のうち、必須課題と必須ではない課題が混在する場合、必須課題を解答できたとき次の課題を提示
- 3) あるアクティビティ(掲示板や課題)にアクセスされたとき、次の課題を提示
- 4) 課題の評価に応じて、次の提示される課題を変える

しかし、複数の課題のうちいずれかの課題(1つとは限らない)を解答できたときに、次の課題を提示する方法では、実装が複雑化してしまうという問題がある。

## 文献

- [1] <http://www.campuscomputing.net/>
- [2] 井上 博樹, 奥村 晴彦, 中田 平, “Moodle 入門オープンソースで構築するe-ラーニングシステム”, (Sep.2006)